

**第6次軽井沢町長期振興計画策定に係る
町民等意向調査(アンケート)報告書
【概要版】**

令和3年1月

軽井沢町 総合政策課

1. 調査の概要

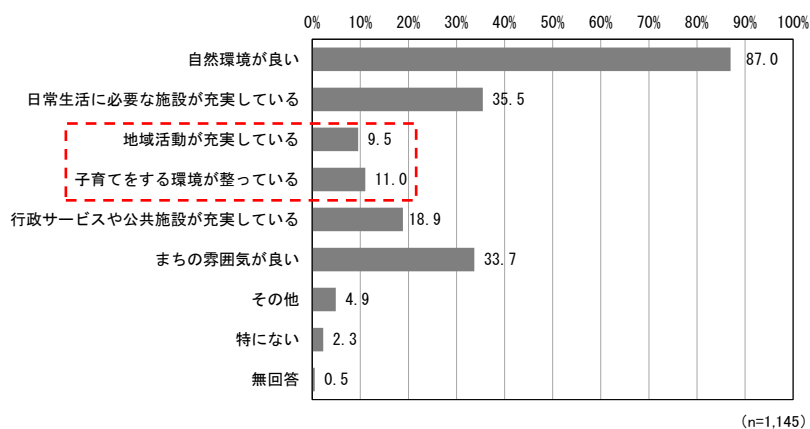
① 町民アンケート			
調査の対象	区に加入する全世帯 (区未加入世帯についてはインターネット回答及び窓口配布)		
調査期間	令和2年9月18日(金)～10月26日(月)		
実施方法	【紙】 区長配布・窓口配布による調査票記載 郵送回収 【Web】 配布調査票・広報誌にて、QRコードを表記 インターネット上にて回答		
回収状況	配布数	回収数	回収率
	5,099 票	1,724 票	33.8%
	※区未加入者からの回答は103票あり、合計1,827票の回答 アンケート結果は、1,827票でまとめた		

② 別荘所有者アンケート			
調査の対象	軽井沢町に別荘を所有する方(無作為抽出)		
調査期間	令和2年9月18日(金)～10月12日(月)		
実施方法	【紙】 調査票記載 郵送での配布・回収 【Web】 配布調査票にて、QRコードを表記 インターネット上にて回答		
回収状況	配布数	回収数	回収率
	1,000 票	477 票	47.7%

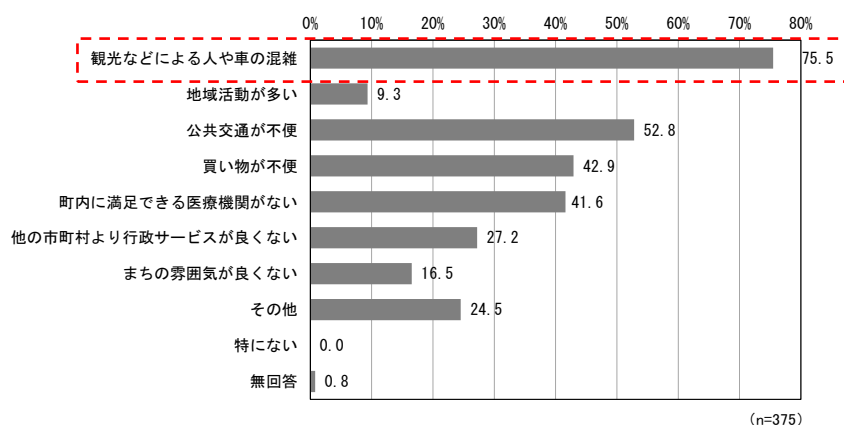
③ 町外(東京都在住)アンケート			
調査の対象	東京都在住者(リサーチ会社登録者)		
調査期間	令和2年11月19日(木)～11月20日(金)		
実施方法	リサーチ会社が対象者に向けてメールやアプリで配信 インターネット上にて回答		
回答状況	回答数		
	1,236		

2. 町民アンケート

Q2-1. 住みやすいと思う点 【MA】



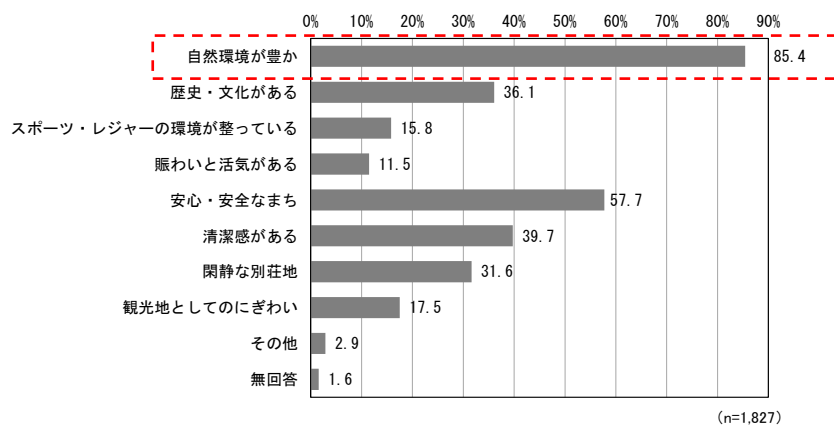
Q2-2. 住みにくいと思う点 【MA】



○住みやすいと思う点は、「自然環境が良い」が最も高くなっている一方で、「地域活動が充実している」、「子育てをする環境が整っている」が低くなっています。

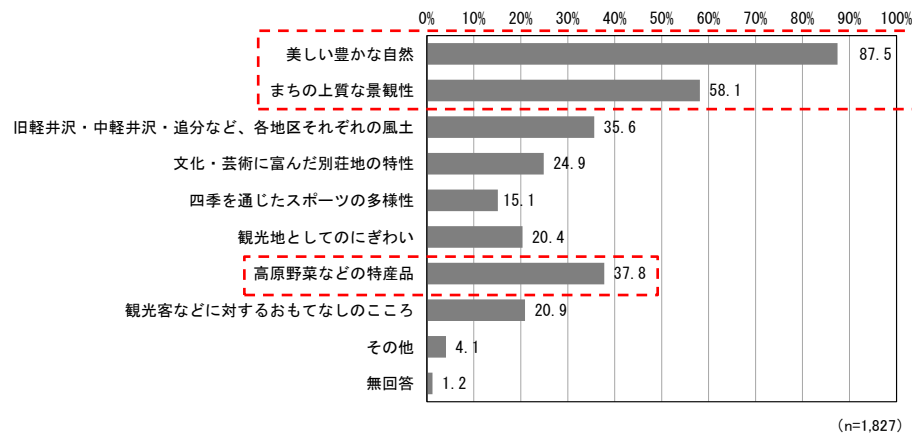
○住みにくいと思う点は、「観光などによる人や車の混雑」が最も高くなっています。

Q5. 大切にしたい軽井沢町のイメージ 【MA】



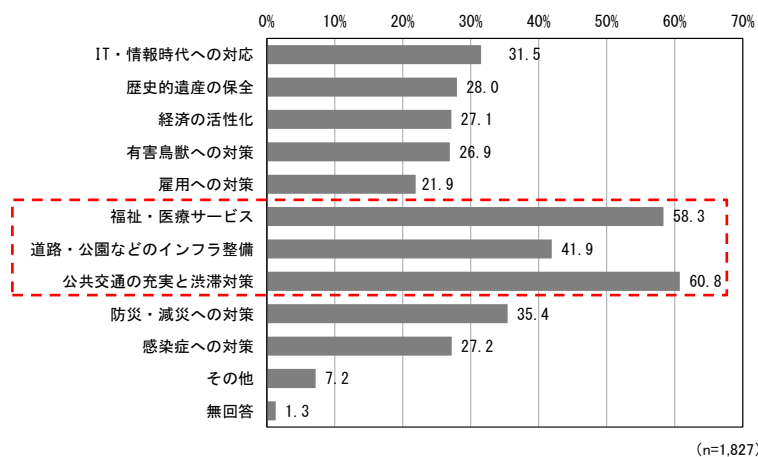
○大切にしたい軽井沢町のイメージは、「自然環境が豊か」が最も高くなっています。年齢別では、年齢が低くなるほど「観光地としてのにぎわい」の割合が高くなっています。

Q6. 次代へ継承していくべきもの【MA】



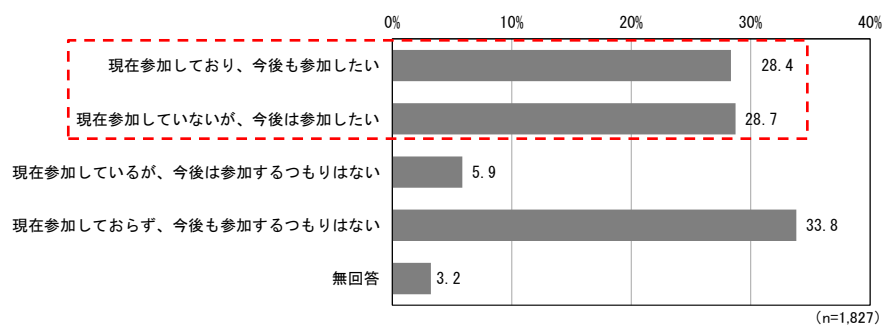
○次代へ継承していくべきものは、「美しい豊かな自然」が最も高く、次いで「まちの上質な景観性」、「高原野菜などの特産品」となっています。

Q7. 今以上に力を入れる必要があると思う点【MA】



○今以上に力を入れる必要があると思う点は、「公共交通の充実と渋滞対策」が最も高く、次いで「福祉・医療サービス」、「道路・公園などのインフラ整備」の順となっています。

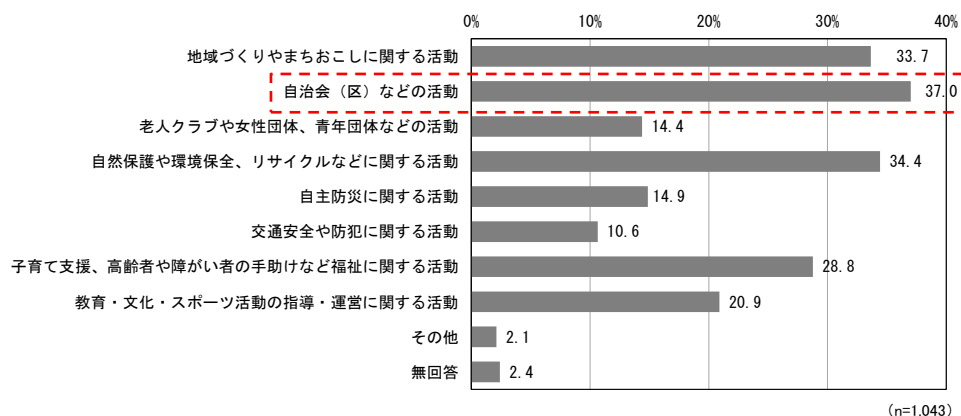
Q8. 地域活動・ボランティア活動の参加状況と今後の参加意向【SA】



○地域活動等の参加意向は、半数以上が「今後は（も）参加したい」と参加の意志を示しています。

Q8-1. 今後参加したい地域活動・ボランティア活動

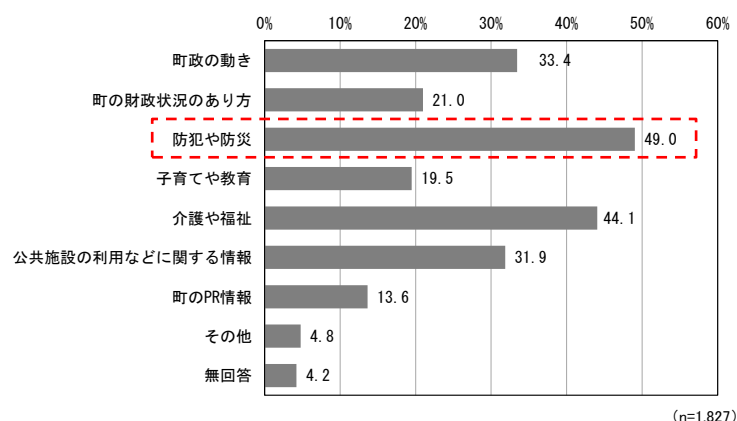
【MA】



○今後参加したい地域活動等は、「自治会（区）などの活動」が最も高くなっています。また、年齢別では、29 歳以下で、「地域づくりやまちおこしに関する活動」、30 歳代及び 40 歳代の子育て世代では、「子育て支援、高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動」が高くなっています。

Q10. 今以上に充実して欲しい情報発信内容

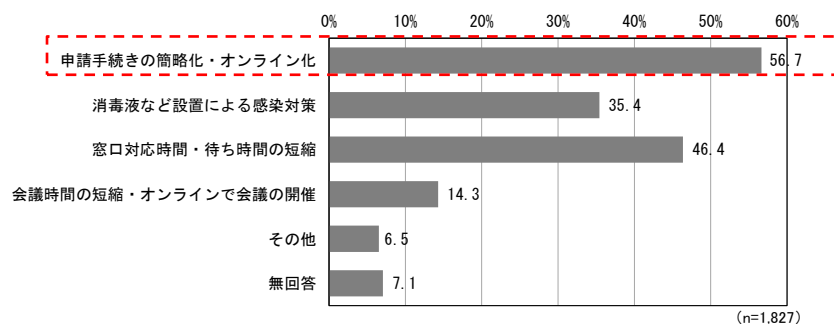
【MA】



○充実して欲しい情報発信内容は、「防犯や防災」が最も高くなっています。30 歳代の子育て世代では「子育てや教育」が高くなっています。

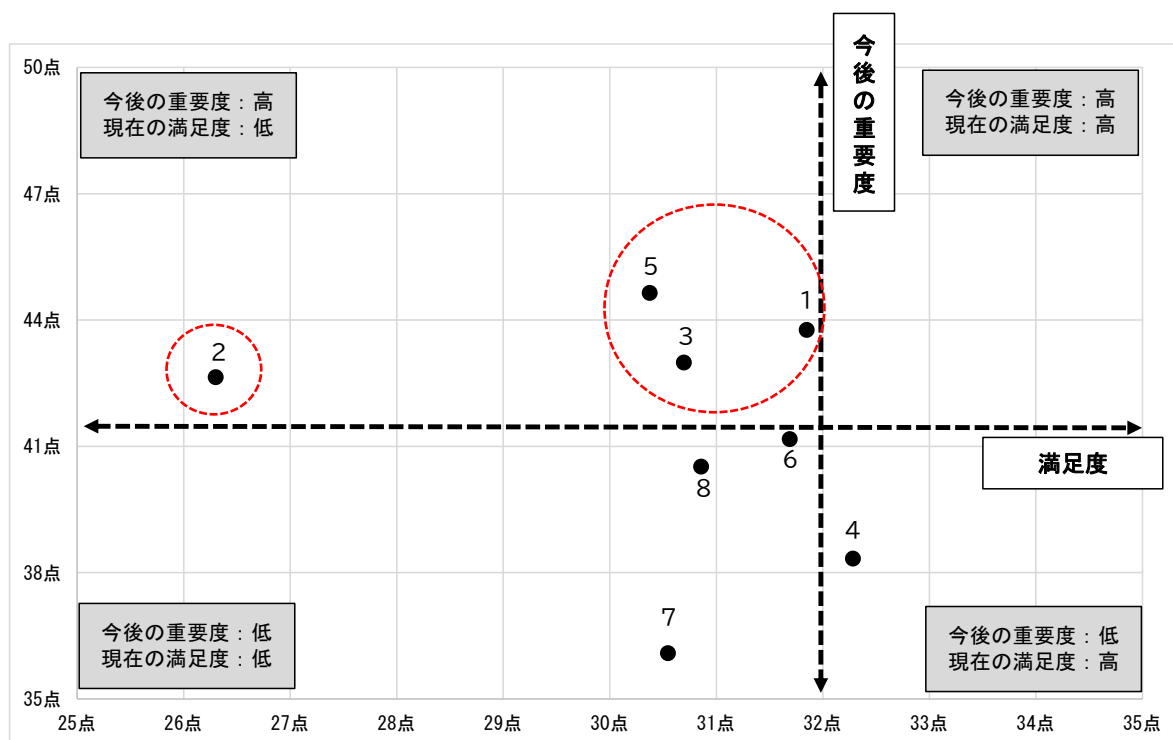
Q13. 町が行うものとして重要なこと

【MA】



○町が行うものとして重要なことは、「申請手続きの簡略化・オンライン化」が最も高くなっています。70 歳以上では「窓口対応時間・待ち時間の短縮」が最も高くなっています。

3. 町の基本方針に対する満足度と重要度の評価



ポジショニング表示	基本方針
1	【基本方針 1 森と高原の快適環境】
2	【基本方針 2 交流を促す円滑交通】
3	【基本方針 3 災害に強い安全・安心のまち】
4	【基本方針 4 軽井沢ブランドを活かした交流のまち】
5	【基本方針 5 安心して暮らせる健康福祉のまち】
6	【基本方針 6 人を育てる教育・文化】
7	【基本方針 7 住民が主役の協働参画のまちづくり】
8	【基本方針 8 持続と自律の地域主権】

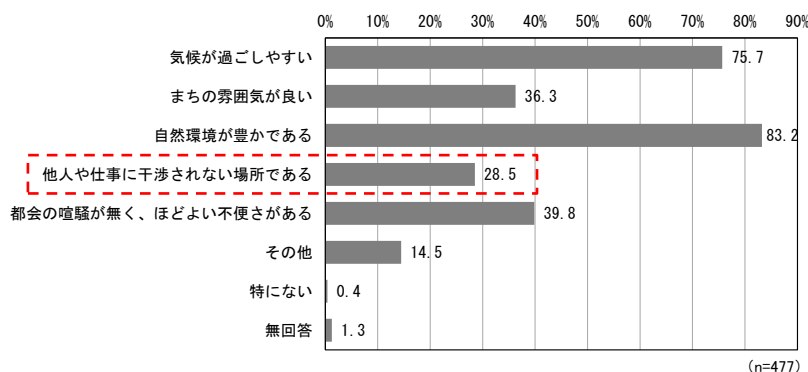
○町民アンケートにおける「第5次軽井沢町長期振興後期基本計画」の基本方針の評価では、『今後の重要度が高く、現在の満足度が低い』基本方針として、以下が挙げられています。

- ◇【基本方針 1 森と高原の快適環境】
- ◇【基本方針 2 交流を促す円滑交通】
- ◇【基本方針 3 災害に強い安全・安心のまち】
- ◇【基本方針 5 安心して暮らせる健康福祉のまち】

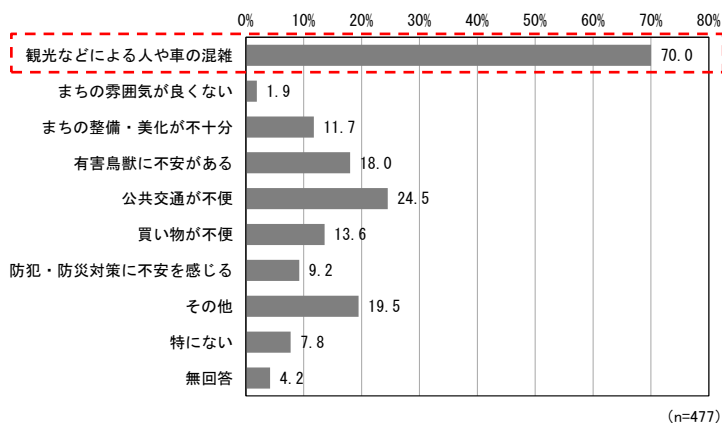
○これらの基本方針は、今後町民の満足度の向上を目指すという観点から、そこに紐づく施策を含めて充実や見直しが求められています。

4. 別荘所有者アンケート

Q3. 軽井沢町が滞在しやすいと思う点 【MA】



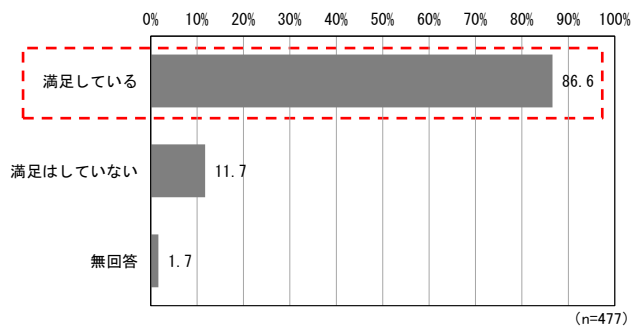
Q4. 軽井沢町が滞在しにくいと思う点 【MA】



○軽井沢町が滞在しやすいと思う点は、「自然環境が豊かである」が最も高い一方で、「他人や仕事に干渉されない場所である」が低くなっています。40歳代～70歳以上で、「まちの雰囲気が良い」は年齢が高くなるにつれて、割合が低くなる傾向となっています。

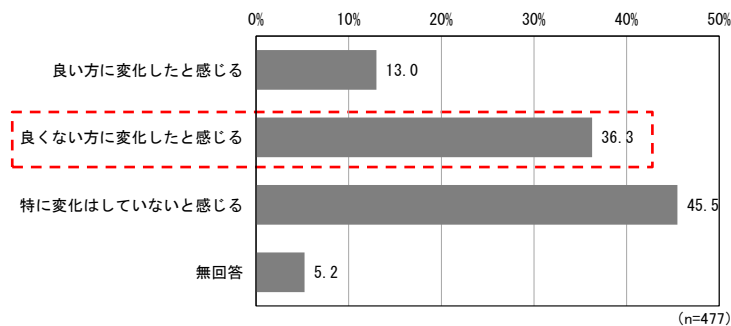
○軽井沢町が滞在しにくいと思う点は、「観光などによる人や車の混雑」が最も高くなっています。

Q5. 別荘の立地環境の満足度 【SA】



Q6. 別荘の立地環境は近年変化していると感じるか

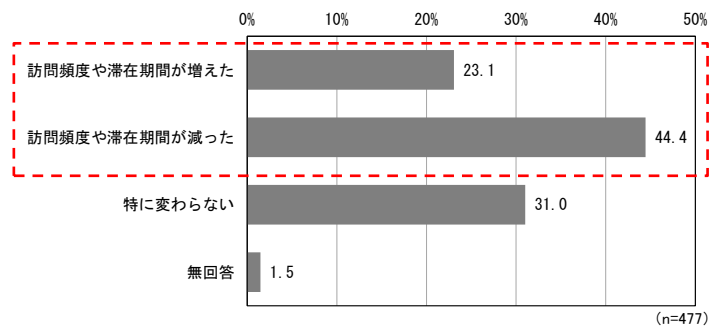
【SA】



○別荘の立地環境の満足度は、「満足している」が8割以上となっている一方で、別荘の立地環境は近年「良い方に変化している」より「良くない方に変化したと感じる」別荘所有者の割合が高くなっています。

Q10. 新型コロナウイルスの影響による訪問頻度・滞在期間の増減

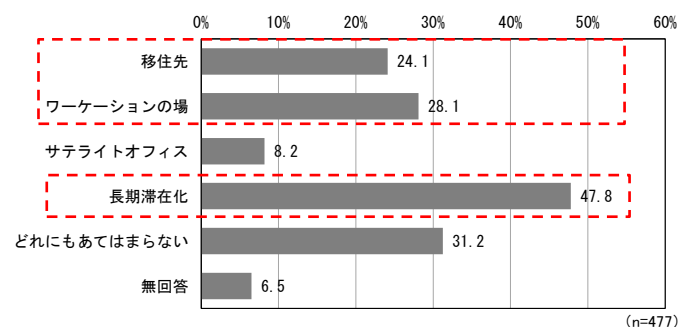
【SA】



○新型コロナウイルスの影響による訪問頻度・滞在期間の増減は、「減った」が4割程度、「増えた」が2割程度となっています。

Q11. 今後の働き方における軽井沢町の可能性

【MA】

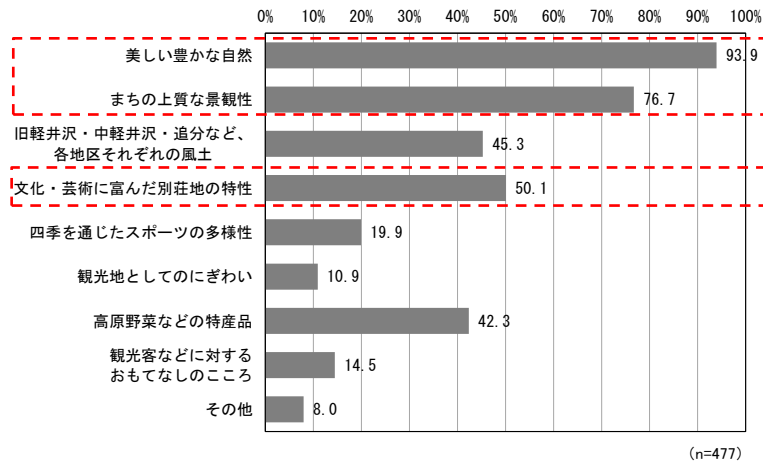


○別荘所有者は「長期滞在化」が最も高く、次いで「ワーケーションの場」、「移住先」の順となっています。

※「どれにもあてはまらない」を除いてコメントを記載しています。

Q12. 次代へ継承していくべきもの

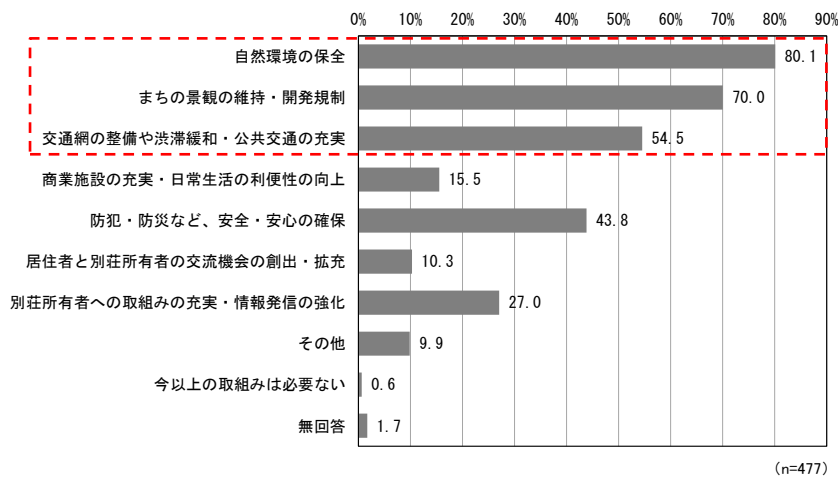
【MA】



○次代へ継承していくべきものは、「美しい豊かな自然」が最も高く、次いで「まちの上質な景観性」、「文化・芸術に富んだ別荘地の特性」となっています。

Q13. 今以上に力を入れる必要があると思う点

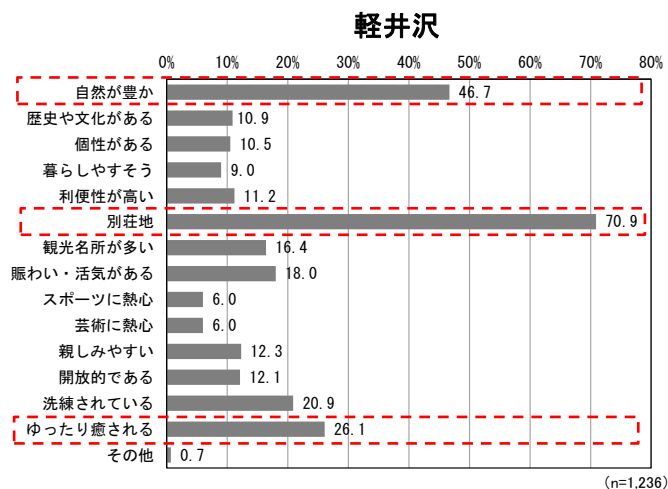
【MA】



○今以上に力を入れる必要があると思う点は、「自然環境の保全」が最も高く、次いで「まちの景観の維持・開発規制」、「交通網の整備や渋滞緩和・公共交通の充実」の順となっています。

5. 町外アンケート

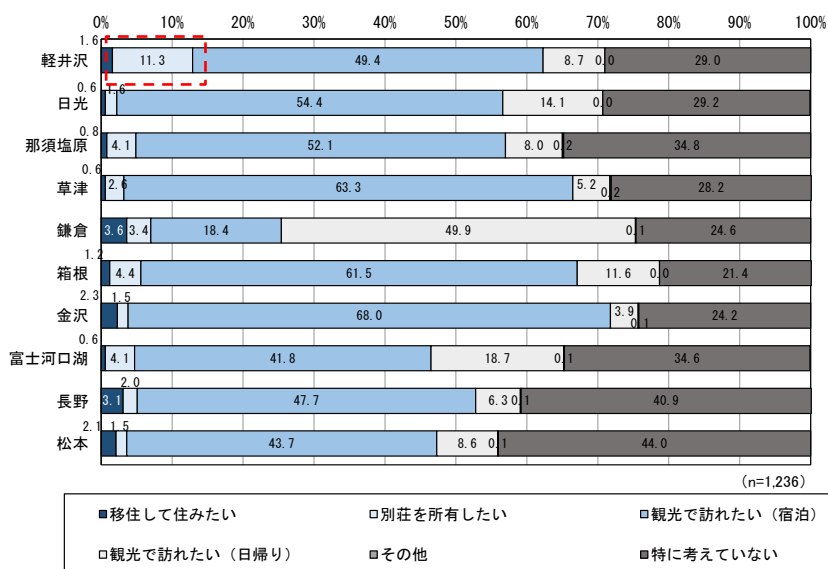
Q4 都市のイメージ 【MA】



○軽井沢の都市イメージは、「別荘地」が最も高く、次いで「自然が豊か」、「ゆったり癒される」の順となっています。「別荘地」のイメージは、他都市と比較しても突出しています。

○一方で「自然が豊か」は那須塩原、富士河口湖、長野よりも低く、「ゆったり癒される」は、那須塩原、草津、箱根より低くなっています。

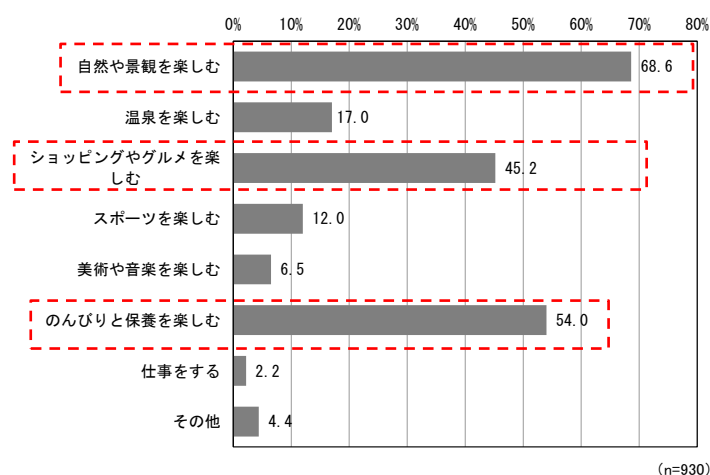
Q6. 都市とのかかわりについて、望まれていること 【SA】



○都市とのかかわりについて望まれていることは、「別荘を所有したい」で「軽井沢」が最も高くなっています。訪問の有無では、「1年以上前に行った」と比較すると、「1年以内に行った」は「別荘を所有したい」が約15ポイント高くなっています。

Q 7. 軽井沢町行った主な目的について

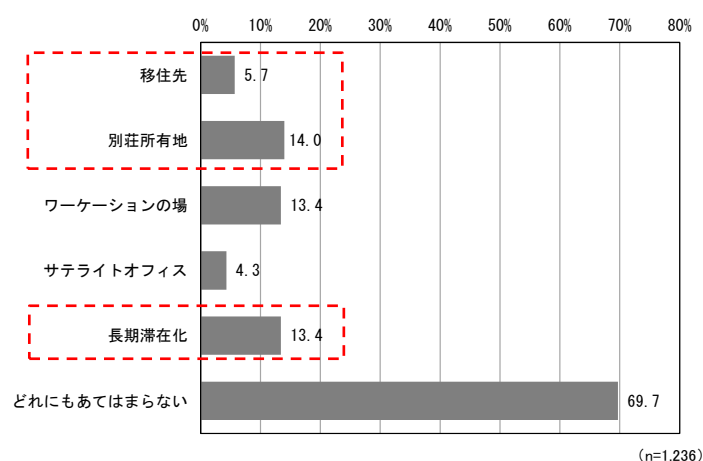
【MA】



○軽井沢町行った主な目的については、「自然や景観を楽しむ」が最も高く、次いで「のんびりと保養を楽しむ」、「ショッピングやグルメを楽しむ」の順となっています。

Q 9. 今後の軽井沢町の可能性について

【MA】



○今後の軽井沢町の可能性は、「別荘所有地」が最も高く、次いでほとんど差がなく「長期滞在化」、「ワーケーションの場」の順となっています。

※「どれにもあてはまらない」を除いてコメントを記載しています。

6. アンケート結果からみた今後のまちづくりの課題

① 豊かな自然環境を保全しながら、いかに住みやすい、滞在しやすい町にしていくか。

住みやすい町、滞在しやすい町、次代へ継承していくもの、都市イメージ、あらゆる設問で「自然環境」項目が上位に挙がってきています。第5次軽井沢町長期振興計画後期基本計画においても、【基本方針1 森と高原の快適環境】で、自然環境の保全等の取組を行っているところですが、町民の評価では満足度は低く、重要度は高い結果となっています。住みやすい町、滞在しやすい町、町外から訪れる方の魅力の一つとして、自然環境保全への取り組み強化と今後の開発との調和が課題となります。また、このコロナ禍の社会情勢の中で、飛躍的に注目され始めているテレワークの一環であるワーケーションの場や長期滞在化も、この自然環境を上手く利用していくことで実現するものと考えられます。

② 観光分野も維持しつつ、いかに公共交通対策と交通網の整備を進めていくか。

今以上に力をいれる必要があると思うものでは、町民及び別荘所有者ともに「公共交通の充実と渋滞対策」が上位に挙がってきています。住みにくいと思う点については、「観光などによる人や車の混雑」も挙がってきており、評価では【基本方針2 交流を促す円滑交通】が最も満足度が低くなっています。一方で町民が大切にしたいイメージでは、若い世代で「観光地としてのにぎわい」の割合が高くなっています。こうしたことから、観光地としての魅力を維持もしくは伸ばしつつ、町での生活に重要な交通対策や整備を上手く図っていくことが求められています。

③ 別荘所有者の声を取り入れて、いかに別荘地として魅力を維持しつづけるか。

滞在しやすいと思う点では、「他人や仕事に干渉されない」、「まちの雰囲気が良い」の割合が低くなっており、また別荘の立地環境が「良くない方に変化したと感じる」が「良い方に変化している」より割合が高くなっています。「自然環境が豊か」であるという魅力はあるものの、従来別荘所有者が求めている滞在環境が変化してきている可能性があります。町外の都市イメージでは、「別荘地」としてのイメージは他都市と比較して突出しており、1年以内に訪れた方は「別荘所有」の意向が高い傾向にあります。今後の軽井沢町の可能性としても「別荘所有地」としての可能性が高まっていることが伺えます。こうしたことから、別荘所有者の意見等を取り入れ、従来の魅力ある別荘地を維持することが課題となります。また町外の別荘需要への取組も検討課題として挙げられます。

④ 町民との協働のまちづくり体制をいかに構築するか。

住みやすいと思う点で、割合は低いですが、「地域活動が充実している」を選択している方がいます。また町民で半数以上が「今後は（も）参加したい」と参加の意志を示しています。今後参加したい地域活動等は、「自治会（区）などの活動」が最も高くなっています。29歳以下で、「地域づくりやまちおこしに関する活動」、30歳代及び40歳代で、「子育て支援、高齢者や障がい者の手助けなど福祉に関する活動」への参加意向が高い傾向にあります。こうしたことから、地域活動をより充実させる環境を整備すること、またこれからも町民との協働によるまちづくりを進めていく必要があります、地域活動をきっかけに“地域ぐるみでのまちづくりの仕組み”を作り上げていくことが重要です。